

みいよく通信

「令和3(2021)年度河内地区地域コーディネーター研修会」の報告について

- ・ 標記研修会が、令和3年7月2日（金）に河内庁舎5階大会議室で、50名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 前半の事例発表では、「エピソードでふりかえるコーディネーターの活動」として、清原中学校地域協議会、陽東小・中学校地域協議会から、各地域コーディネーターの方々の取組事例などについて紹介していただきました。
- ・ 後半は、前半の活動事例をふまえて、一般社団法人 とちぎ市民共同研究会 代表理事 廣瀬隆人氏から、発表いただいたコーディネーターの方々との対話方式で「学校と地域を結ぶコーディネートのコツ」についてご講義いただきました。
- ・ 全体を通し、地域コーディネーターの方同士で会話をする場面もあり、活発な意見交換が行われていました。

事例発表①

清原中学校地域協議会 「松のこも巻き」

清原中学校 地域コーディネーター 林 文子 氏, 松山 聡子 氏

1 活動の経緯

- 元々は陸軍飛行場（鎧山飛行場）であった清原中学校。
目印のために植えられた松は、樹齢70年以上のものも…
松の手入れは外部にお願いしていたが、予算的に厳しいこともあり地域協議会委員の方が手入れを始める。休日に委員の方だけで始まったものが、部活動をする生徒、地域住民、PTA、教員と広がっていき、令和3年の松の剪定の参加者は約50名にまでのぼった。
- 「松の緑を守る基金」を設立した。



地域の宝
シンボリック的存在



2 活動の概要

- 冬の害虫駆除を目的とした「こも巻き」を毎年11月に行う。
- 生徒が自分の松に自分の名前のプレートを設置する。 → 松を守る意識の向上
- 地域の方が持つ松への思い「代々受け継がれているもので、大切にしてきた松」を伝えていくことで、参加者も賛同し、松を大切にする意識が向上していく。

3 成果・課題等

- 参加者の増加
 - ネットワークの構築
 - 伝統文化継承 → 生徒の参加も促すことで、松への思いも代々受け継がれていく。
- 活動を通して、地域住民、保護者の関わりが増える。 → **地域づくり**

事例発表② 陽東小・中学校地域協議会 「エピソードでふりかえるコーディネーターの活動」

陽東小・中学校 地域コーディネーター 山田 葉子 氏

1 活動のきっかけ

- 学校の先生を訪ねた保護者の方が、学校の現状を目の当たりにする。先生方は、実際は先生がやらなくてもよいものも抱えていることが多く、手伝えることはないかと「自発的」にボランティアが始まった。



2 活動の状況

- 図書本の修繕，季節に合わせた学校玄関のディスプレイ作成 家庭科の授業中の手伝い，教材作りなど。
- 先生と話し合っただけでやることを見つけていたが，次第に地域コーディネーター同士で話し合いできることを見つけて自主的に動くようになる。

ボランティア要請カード・依頼ボード

先生方にカードを配布したりボードを職員室に設置する
→気軽に依頼・話し合いの時間短縮



ボランティアに向けた注意文配布

活動前に注意点等をまとめた文を配布
例：学習支援時に学校の先生の授業を否定するような発言をしない など…

3 コーディネーターとしての心かけ

持続可能な活動を

地域協議会として確立・自立した活動をする中で、先生の異動等があっても滞りなく運営できる。

先進事例よりも先人事例！

新しいことを始めるよりも、自分の地域で行っていたことをもとに、したいこと・すべきことを考えて活動することが大切。

ボランティアの立場をはっきりと

先生がすべきことなのか、ボランティアの担当なのか、保護者の方ができることなのか・・・線引きをはっきりし、できないことはできないと伝える。

親しき中にも礼儀あり

普段子どもに対する接し方と同じように先生と地域の方が対等な関係を築いていることが大切。

できることにプラス

学校のためにどんなことができるか、に加えてどんなことがしたいかに繋げることで、主体的に動く気持ちがより強くなる。



廣瀬隆人氏からひと言
最も大切なことは
心や気持ちの問題！
できること+したいこと！

☆主な意見☆(実施後アンケート)

①今後生かしたいこと

- 地域の思いを学校に、学校の思いを地域に伝えて、多くのコミュニケーションの場を作りたい。
- 学校と地域のパイプ役になり、自分たちがしたい活動を考え、子どもたちにいろいろな体験をしてもらえるようにお手伝いしたい。
- ボランティアの方々へ注意書きを渡すのを自分の学校でも活用したい。
- 「できること」から「したいこと」に活動をシフトしたい。
- 今後のコーディネーター活動は、短期、中期で活発な活動ができるようにしたい。
- 自分の地域で活動が始まったきっかけを調べ、地域らしさを出していきたいと思う。
- コロナ禍の中で、学校の先生方と話し合う機会が激減してしまっているが、出来るだけ連携をとって今後の活動のシミュレーションをしていきたいと思う。
- 地域のシニア層を取り込んで、地域の活性化につなげていきたい。
- ボランティア出動要請カードをすぐやりたいと思う。

②感想

- 学校支援をしている中で、「地域の人たちのつながりをつくっている」ということを心に刻んでおきたいと思った。
- 学校と連携して話し合いをすることが大切だと思った。話し合いをすることで、本心を理解し、良い関係を築いていけるのだと思いました。
- 子どもに体験させることの大切さ、地域の人たちとのつながりの大切さがよく理解できた研修だった。
- ボランティア歴が長くなると、先生との間がとりやすくなるので、「親しき中にも礼儀あり」は大切なことだと思った。
- 活動後、ふりかえりができる仕組み作りも大切だと思った。
- 本校に必要なもの(妄想・欲望・野望)を考えてみたいと思った。
- 学校支援コーディネーターとは、地域づくりコーディネーターでもあることがとても心に響いた。そのことを念頭に活動していきたい。

☆ご連絡☆

- 9月末までの地域学校協働活動推進員の活動日誌のデータを、10月29日(金)までに、ミライムにて生涯学習課代表宛て、ご提出をお願いいたします。
- 地域協議会の会議を開催した後、会議資料を送付にてご提出をお願いいたします。書面による開催の場合も、委員の皆様へ送付した資料のご提出をお願いいたします。
- 後期分の委託料は、10月25日に振込み予定となっております。
- 昨年度、コロナの影響による活動の減少に伴い、余った委託料を返納していただき、ありがとうございました。今年度も、委託料の適切な経理をお願いいたします。(委託料は、全て使わなければいけないということはありません。返納する額が、翌年度の委託料の金額に影響することはありません。)